



教育長挨拶

大石南中学校におかれましては、令和6・7年度上尾市教育委員会の委嘱を受け、「生徒の探究力を伸ばす教育活動の工夫～小規模校の特性を生かした個別最適な学びと協働的な学び～」を研究テーマに掲げ、学習指導の研究に取り組まれました。このたび、2か年の研究成果を発表されますことに心から敬意を表します。

西倉 剛

さて、学習指導要領には、「個別学習やグループ別学習、繰り返し学習、学習内容の習熟の程度に応じた学習」を行うことや、「教師間の協力による指導体制を確保すること」など、生徒や学校の実態に応じて指導方法や指導体制を工夫改善し、個に応じた指導の充実を図ることが示されています。

本校におかれましては、小規模校ならではのきめ細やかな生徒理解に基づいた習熟度別学習の実施や、自分に合った学習方法を見付ける石南学習会、生徒が自身の伸びを実感できるイベントテストなど、学校を挙げて一人一人の学びを支援する体制づくりに取り組まれました。このような柔軟な指導体制の実現には、大木校長先生のリーダーシップの下、全教職員がそれぞれの専門性を発揮しながら、有機的に機能するチーム体制を構築することが必要となります。本研究は、全ての児童生徒の資質・能力を育むための「チームとしての学校像」を示すものとしても、大変意義深い研究であると考えております。

結びに、御指導を賜りました指導者の方々、御支援をいただきました保護者・地域の皆様に厚くお礼申し上げます。また、大木校長先生をはじめ教職員の皆様の熱心な研究への取組に対し感謝申し上げますとともに、大石南中学校のますますの発展を祈念し、挨拶といたします。



校長挨拶

令和6・7年度上尾市教育委員会の委嘱を受け、『「生徒の探究力を伸ばす教育活動の工夫」～小規模校の特性を生かした個別最適な学びと協働的な学び～』を研究主題に、各教科をはじめ全ての教育活動において研究に取り組んでまいりました。

大木 まみこ

特に「大石南中学校だからこそできること」を深掘りしながら、生徒一人一人に目が届きやすいという少人数指導の強みや長所を最大限に生かしながら全職員で授業改善を地道に進めてまいりました。

学力向上推進委員会にて、各テストの分析や学習会の運営の仕方などを精査・修正しながら、生徒自らが学びに向かう態度を高められるよう工夫を重ねてまいりました。今年度は、生徒会主催でテスト前の自習室を開設したいという提案を実現することもできました。また、今年度は、ボランティアを募り、上級生が下級生に教える夏季自習会を行い、成果をあげました。

本日は3つの授業を公開いたします。これまでの研究成果の一端を是非御覧いただき、忌憚のないご意見をお聞かせください。

今後も本校学校教育目標「人生の基礎を培い 夢を語り 向上心と勇気を育てる～出あい ふれあい 学びあい」をモットーに、一人一人の生徒に目を向けて教育活動に邁進していく所存です。

結びに、本校の研究推進に当たり、上尾市教育委員会の皆様をはじめ、多くの関係の先生方の御指導・御支援を賜りましたことに深く感謝申し上げます。

成果と課題

【成果】

- 年度初めに「学びのススメ」集会を開き、なぜ学ぶのかという学習の目的や各教科の勉強方法について生徒全員で共有する場を設けることによって、生徒の学習意欲の向上につながった。【探究力・学習方略の向上】
- 「夏季自習会」や「石南学習会」、「イベントテスト」を開催したことで、生徒の自主学習する時間を確保し、自主学習へと向かう雰囲気を高めた。【探究力・非認知能力の向上】
- 数学の授業では、「基礎クラス」と個別支援を重視する「補充クラス」に分けることによって、生徒を誰一人として取り残さない体制を整えることができ、学力の底上げを図ることができた。【個別最適な学びの実現】
- 小規模校の特性を生かして、積極的なグループ活動の導入やICTを活用した意見交流を行い、多面的・多角的な見方、考え方を養うことができた。【協働的な学びの実現】

【課題】

- 今後の生徒の学力向上を図る上で、授業で身につけた力を基にして、継続的に粘り強く、自ら進んで学習する態度をいかに育成していくかを検討していく必要がある。
- 授業に参加できない不登校生徒に対して、どのように学びの機会や学力を保障していくのかを検討していく必要がある。

御指導いただいた先生方

【敬称略】

HILLOCK 初等部スクールディレクター	蓑手 章吾
上尾市教育委員会学校教育部長	瀧澤 誠
上尾市教育委員会学校教育部次長	島田 栄一
上尾教育委員会学校教育部指導課長	武田 直美
上尾教育委員会学校教育部指導課主幹	松林 剛志
上尾市教育委員会学校教育部指導課指導主事	玉造 勇輝
上尾市教育委員会学校教育部指導課指導主事	高橋 恭之
上尾市教育委員会学校教育部指導課指導主事	杉原 慎一

■研究に携わった職員

令和7年度

大木まみこ（校長）	根井 直樹（教頭）				
光谷 陽平	小林 健明	山田 智子	早川 豪	井内麻里菜	
宮澤 幸代	関根 典子	栗原 智輝	和田 竜	佐東かすみ	
片桐 知宏	吉田 詩織	稲岡 秀成	有地 雅子	長谷川航希	
金子 泰雄	長澤 博美				

令和6年度

石川 昭伸	鈴木 美志	藤田 佳穂	菅野 翔太	小林龍太郎	
杉浦 知子	横田千奈美				

令和6年度

令和7年度

上尾市教育委員会委嘱 学習指導研究発表会



研究主題

「生徒の探究力を伸ばす
教育活動の工夫」
～小規模校の特性を生かした個別最適な学びと
協働的な学び～



令和7年11月19日（水）

上尾市立大石南中学校

〒362-0064

上尾市大字小敷谷1105番地

電話 048(726)0511

FAX 048(726)3162

URL <https://www.city.ageo.lg.jp/site/oishiminami-juniorhighschool/>



各項目の詳細は、左の二次元コードから
学校HPへアクセスをお願いします。



本校マスコット
スタミン

研究主題

「生徒の探究力を伸ばす教育活動の工夫」 ～小規模校の特性を生かした個別最適な学びと協働的な学び～

「研究主題について」

本研究においては、小規模校という強みを生かし、生徒の学力向上に向けて「個別最適な学び」と「協働的な学び」の両者を一体的に充実していくことで生徒の探究力を伸ばし、確かな学力の育成を目指すことを目的とする。また、様々な取組を行い、その有効性を検証し改善していくことで、効果的な学習指導の在り方や工夫点を研究し、教育活動の更なる充実を図る。

Oishi Minami junior high school ● Commissioned research

【仮説1】

生徒一人一人に対し学習の個性化と指導の個別化を図ることで、生徒の探究力や学習方略が伸び、学力が向上するであろう。

【仮説2】

多様な集団における交流と協働的な学びを充実させることで、探究力や非認知能力が高まり、学力が向上するであろう。

研究の構想

探究力

- ①探究しようとする力(自ら追求したり追究したりする態度)
- ②探究する力(個人で知識を得る、意見交流で思考を深める力)
- ③探究した力(探究で得た知識を、自由自在に活用できる力)

一体的に充実

個別最適な学び

(指導の個別化と学習の個性化)

協働的な学び

(規模・質ともに多様な集団の交流)

教科・授業研究部

■個別最適な学びと協働的な学び

1 少人数指導(数学)

基本クラス 4人グループで協力して課題に取り組む。
補充クラス 個別の支援を重視する。

基本クラスの授業の流れ

- ①本時の課題説明
- ②演習(グループワーク)
- ③本時の学習内容についての確認テスト
- ④本時の振り返り

補充クラスの授業の流れ

- ①既習事項の確認
前時の確認テスト
- ②本時の課題説明
- ③課題に取り組む。(個人)
(授業者、アピ・スマイルサポーターによる個別支援)
- ④本時のまとめ



補充クラスの授業では、
数学教員だけでなく学習
支援員や校長先生等も支
援に入っているよ。



2 個別の目標設定(英語)

自分で課題のレベルを選ぶ (Memorization の例)

☆☆☆☆☆ Go! Go! Memorization!!	
Class: No. () Name: ()	
Program 1 Part ②	☆☆☆☆☆
Miki: (H)	ここにちほ!
(T s)(f)(h)(t)(p)(f)(m)	私のためにパーティーを聞いてくれてありがとう。

↑ ①単語の頭文字を見て

↑ ②日本語訳を見て

☆☆☆☆☆	
Program 1 Part ②	☆☆☆☆☆
Miki: Hi!	Hi!
Thanks for having the party for me.	Thanks for having the party for me.

↑ ③読み仮名付きで

↑ ④読み仮名なし



生徒自身が、取り組む問題の課題レベルを
選択できるように工夫しているよ。

領域・生活向上部

■学習の目的の設定・環境整備

1 夏季学習会



生徒が「学習ボランティア」として学習支援を行います。

2 総合的な学習の時間



生徒の興味・関心を引き出す
課題設定を行います。

3 石南学習会



定期試験前、質問や教え合い
を行い、疑問を解決します。

4 教科ルーム



教科の特性を生かした環境を
整備し、興味関心を高めます。

5 イベントテスト



全学年が同じ問題に取り組み、学年を越えて競い合います。
合格点は学年が上がると高く設定されています。再テストの
方法も個に合わせた方法を取り、最終的に全員合格を目指します。

イベントテスト1年間の伸び

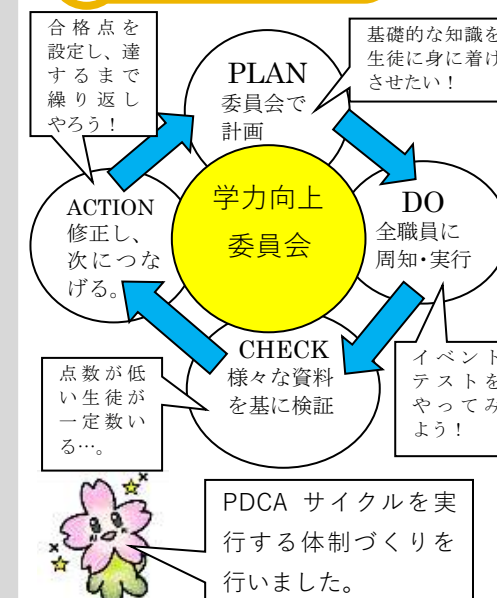
例:基本的な英単語 100点満点

	R6 9月実施	R7 9月実施
現2年生	1年次平均点 51	2年次平均点 73
現3年生	2年次平均点 84	3年次平均点 95

評価・効果検証部

■取組の評価と効果検証

1 学力向上委員会



【学力向上委員会】

- ・月に1回、管理職、研究主任、進路指導主事、各学年学力向上担当がメンバーとなり、情報共有や確認・提案事項等を協議している。
- ・学力向上に関する取組や提案だけではなく、評価や効果検証を行い、PDCA サイクルを行う中で、中心となっている。

2 学力状況調査の結果分析

R6年度からの学力の伸び

	県	市	本校
中2 国語	1	2	2
中2 数学	4	4	4
中3 国語	2	3	3
中3 数学	2	2	1
中3 英語	3	3	3

県学力状況調査生徒対象質問調査結果

	R6年度 (%)		R7年度 (%)	
項目	中1	中2	中2	中3
あいさつ	75.7	81.1	86.8	89.6
返事	83.8	97.4	92.5	97.9
学習準備	81.1	88.7	89.5	100
話を聞き発表する	56.8	84.9	92.1	95.8
掃除・美化活動	73.0	84.9	89.5	95.8



すべての項目において生徒の伸び
が見られたよ!